

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 上市公司 实力雄厚 品牌保证 | <input checked="" type="checkbox"/> 权威师资阵容 强大教学团队 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 历次学员极高考通过率 辅导效果有保证 | <input checked="" type="checkbox"/> 辅导紧跟命题 考点一网打尽 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 辅导名师亲自编写习题与模拟试题 直击考试精髓 | <input checked="" type="checkbox"/> 专家 24 小时在线答疑 疑难问题迎刃而解 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 资讯、辅导、资料、答疑 全程一站式服务 | <input checked="" type="checkbox"/> 随报随学 反复听课 足不出户尽享优质服务 |

开设班次: (请点击相应班次查看班次介绍)

基础班	串讲班	精品班	套餐班	实验班	习题班	高等数学预备班	英语零起点班
-----	-----	-----	-----	-----	-----	---------	--------

网校推荐课程:

思想道德修养与法律基础	马克思主义基本原理概论	大学语文	中国近现代史纲要
经济法概论(财经类)	英语(一)	英语(二)	线性代数(经管类)
高等数学(工专)	高等数学(一)	线性代数	政治经济学(财经类)
概率论与数理统计(经管类)	计算机应用基础	毛泽东思想、邓小平理论和“三个代表”重要思想概论	

[更多辅导专业及课程>>](#)

[课程试听>>](#)

[我要报名>>](#)

浙江省 2011 年 4 月高等教育自学考试
日本文学选读试题
课程代码:00612

一、次の文の _____ の漢字の読み方を平仮名で書きなさい。

(1点*10=10点)

1. 万卷の書物を読破する。
① ② ③
2. 友情の場合にはこのような独占欲はごく未熟な子供どうしでなければ起こりません。
④ ⑤
3. そこには無数の取り違えや欺瞞や無意識の虚偽が横行する。
⑥ ⑦ ⑧
4. 彼に謝罪したろうと思います。
⑨
5. おおきいな桑の木が道端にある。
⑩

二、次の _____ の言葉の解釈として、最も適当なものを、A、B、C、Dの中から一つ選んで、その記号を解答用紙に書きなさい。(2点*10=20点)

1. 姉の住む徳島の紅葉山から月を仰いだが、その月もこよなく冷やかで美しかった。
A この上なく B 賑やかで C 怖く D 静かで
 2. 宿のあるじに拒絶されて、再びさまよっていく。
A 所有者 B 客 C 学者 D 親戚
 3. はちは羽目のあわいからする抜けると、ひとまず玄関の屋根に下りた。
A 板壁と板壁の左 B 板壁と板壁の隙間
C 板壁と板壁の前 D 板壁と板壁の右
 4. 心では決めたが、実際はそうきっぱりとはいかなかった。
A びったり B すっぱり C すっきり D しっかり
 5. ようやく峠の北口の茶屋へたどり着いた。
A やっと B すぐ C じきに D せめて
 6. 月のない空には、あらん限りの星がきらきら輝いていた。
A あるだけ全部 B 数え切れないほど
C たくさん D すこし
 7. 男は次第に雄弁になっていた。
A すぐに B ただちに C おいおい D びったり
 8. 「おれは入らない、卑劣なやり方で入れようとしてもその手にのるもんか」と彼は叫んだ。
A 取られる B 止められる C 聞かれる D 騙される
 9. 女は急に馴れ馴れしく玄関にはいつて来ようとする。
A 親密すぎて B 早く C 遅く D 煩わしく
 10. 拍子抜けした彼女は、あれほど頭に血を昇らせていた自分がばかばかしく思えた。
A 心配した B 安心した C がっかりした D うっかりした
- 三、次の文をよく読んで、後の問いに答えなさい。(3点*5=15点)

★しかしこれでも分かるとおり、友情とか愛情とかいう感情には、実に複雑な階梯と種類とがあります。その本当の姿は僕らが人生で (1) 与えられない宝であり、しかも全身で求める価値のあるものである反面、実に雑多な (2) がその陰に隠れ、それと同じ名前で呼ばれています。そしてこれがおそらく友情と恋愛との最後の、そして最大の共通点です。世の中には人間の数と同じだけ、(3) を異にした恋愛と友情があります。そこには無数の取り違えや、欺瞞や、無意識の虚偽が横行しながら、めいめいが自分の愛情だけは本物と信じて、一時の感情から永遠を誓い合ったりします。

【問】1、“(1)”にどんな言葉を入れたらいいですか。一つ選びなさい。

- A めったに B 少し C そのうえ D ちなみに

【問】2、“(2)”にどんな言葉を入れたらいいですか。一つ選びなさい。

- A 人生 B 偽物 C 若者 D 恋愛

【問】3、“(3)”にどんな言葉を入れたらいいですか。一つ選びなさい。

- A 名前 B 質 C 虚偽 D 取り違え

★間もなく、茶店の婆さんが私を別の部屋へ案内してくれた。非常用はないらしく戸障子がなかった。下をのぞくと美しい谷が目の届かない (1) 深かった。私は肌にあわ粒をこしらえ、(2) と歯を鳴らして身震いした。茶を入れに来た婆さんに、寒いと言うと、

「おや、旦那様おぬれになってるじゃございませんか。こちらでしばらくおあたりなさいまし、さあ、お召し物をお乾かしなさいまし。」と、手を取るようにして、自分たちの居間へ誘ってくれた。

【問】4、“(1)”にどんな言葉を入れたらいいですか。一つ選びなさい。

- A しか B だけ C ほど D もの

【問】5、“(2)”にどんな言葉を入れたらいいですか。一つ選びなさい。

- A ぱちぱち B きらきら C はらはら D かちかち

四、次の文をよく読んで、後の問いに答えなさい。(3点*5=15点)

★「砂漠とは、そこへ入りこむときには心配で、そこから出て行くときにはなんの名残もないそういう地域である。砂漠には何もない。ただ、その人自身の反省だけがあるのだ。」

私は、砂漠に自分自身の姿を見に行くのである。

【問】1、“そこ”は何を指しますか。一つ選びなさい。

- A 砂漠 B 地域 C 行きたくないところ D 名残があるところ

★道は、歩いて来た方を振り返ってみる時と、これから進んで行こうとする方向に立ち向かう場合がある。私はこれから歩いて行く方向の道を描きたいと思った。ゆるやかな上り坂に向かった時、私達には、これから、そこを歩いて行くという感じが起る。それに反して下り坂を見おろすと、いままでたどって来た道を振り返った感じになり易い。

【問】2、“そこ”は何を指しますか。一つ選びなさい。

- A これから歩いて行く方向の道 B ゆるやかな上り坂
C 歩いて来た道 D 描きたい道

【問】3、“それ”は何を指しますか。一つ選びなさい。

- A これから歩いて行くという気持ちが生ずること
B いままでたどって来た道
C 歩いて来たところ
D 急な下り坂

★こういう過去を二人の間を通り抜けてきているのですから、精神的に向上心のない者はばかだという言葉は、Kにとって痛いにちがいがなかったのです。しかし前にもいったとおり、私はこの一言で、彼がせつかく積み上げた過去を蹴散らしたつもりではありません。

かえってそれを今までどおり積み重ねてゆかせようとしたのです。それが道に達しようが、天に届こうが、私はかまいません。私はただKが急に生活の方向を転換して、私の言葉は単なる利己心の発見でした。

【問い】4、“それ”は何を指しますか。一つ選びなさい。

- A 過去 B かれ C 精神 D 痛み

★彼の話の間は気付かなかったが、一人になって眺めてみると、霧は果たして一面に濛と沸き返って、それが次第に空へ昇っている。そして鋭い朝日の光が、いつしか横ざまに直射して、蜘蛛の巣の露は消え、その下の叢から虫の声が断続し、裏の松林の中には、晴れやかな小鳥の声が響いていた。

【問い】5、“それ”は何を指しますか。一つ選びなさい。

- A 蜘蛛 B 霧 C 朝日の光 D 小鳥

五、次の文をよく読んで、後の問いに答えなさい。(5点*4=20点)

★私は何度か砂漠へ出かけた。旅ということばをきくと、どういうわけか私の胸中には空と砂とがひとつに溶け合った果てしない砂漠の光景が浮かぶのである。そのような光景が浮かぶと、つぎの瞬間、私はどうしてもそこへ我が身を置いてみたくなる。こうして私はまるで砂にたぐり寄せられるように砂漠へ旅立った。

なぜ砂漠にそんなに惹かれるのか。自分にもよくわからない。しかし、おそらく、砂漠というものが、私にとってはまったくの反世界だからだろうと思う。

【問い】1、“そのような光景”はどんな光景ですか。

- A 砂がいっぱいある砂漠
B 空がとてもきれいな光景
C 空と砂とがひとつに溶け合った果てしない砂漠
D 旅をする光景

【問い】2、砂漠は作者にとってどんなものですか。正しくない文の一つを選びなさい。

- A 行きたいと憧れているだけのところ。
B 何回も旅をしたところ。
C まったくの反世界。
D 旅ということばをきくと、砂漠の光景がすぐ浮かぶところ。

★だんだんと薄暗くなってきた。いつまで行っても、先の角はあった。もうここで引き返そうと思った。自分は何気なくわきの流れを見た。向こう側の斜めに水から出ている半畳敷きほどの石に黒い小さいものがいた。いもりだ。まだぬれていて、それはいい色をしていた。頭を下に傾斜から流れへ臨んで、じっとしていた。体から滴れた水が黒く乾いた石へ一寸ほど流れている。自分はそれを何気なく、しゃがんで見ていた。自分は先ほどいもりが嫌いではなくなった。とかげは多少好きだ。やもりは虫の中でも最も嫌いだ。いもりは好きでも嫌いでもない。十年ほど前によくあしの湖でいもりが宿屋の流し水の出る所に集まっているのを見て、自分がいもりだったらたまらないという気をよく起こした。いもりにも生まれ変わったら自分はどうするだろう、そんなことを考えた。そのころいもりを見るとそれが思い浮かぶので、いもりを見ることを嫌った。しかしそんなことを考えなくなっていた。自分はいもりを驚かして水へ入れようと思った。

【問い】3、何が頭を下に傾斜から流れへ臨んで、じっとしていたのか。

- A いもり B 黒い小さいもの C 自分 D やもり

【問い】4、“そんなことを考えた”と書いてありますが、どんなことですか。

- A いもりが宿屋の流し水の出る所に集まっていること
B 体から滴れた水が黒く乾いた石へ一寸ほど流れていること

- C いもりにも生まれ変わったら自分はどうするだろうということ
- D いもりは好きでも嫌いでもないこと

六、次の文章を現代日本語に訳しなさい。(20点)

神無月のころ、栗栖野といふ所を過ぎて、ある山里にたづね入ること侍りしに、はるかなる苔の細道を踏み分けて、心細く住みなしたる庵あり。木の葉に埋もるる懸樋のしづくならでは、つゆおとなふものなし。閼伽棚に菊・紅葉など折り散らしたる、さすがに住む人のあればなるべし。

自考365
www.zikao365.com

